

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	孝山会
年 月 日	令和2年1月30日
参 加 者 名	川崎朋巳、大沢芳朋、高橋義明、棚井裕一、高橋要市
視察地（視察先）	兵庫県豊岡市
目 的	子どもたちの体力向上と健全育成
調 査 項 目 等	豊岡運動遊び事業について
概 要	<p>豊岡市教育委員会は、平成18年3月「豊岡市教育行動計画」を策定し、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育む教育を目指し、市内の全保育・幼稚園において「幼児期における運動遊び事業」を導入しました。以来、普及の促進と事業検証期間を経て小学校との連携を実現し、現在に至っております。</p> <p>かつて子供たちは「鬼ごっこ」や「かくれんぼ」等の体を使った遊びを通じ、「社会性」や「協調性」を身に着け、心と体をバランス良く育ててきたと言われておりますが、現在では、少子化が進み、車社会や、犯罪の多発等、安心して子供を外に出せないことから、幼児期に体を動かす遊びが不足したまま育つ子供が多くなり、同時に携帯型ゲーム機等、メディア関連が全盛となり、家の中で遊ぶ事が非常に多くなっております。近年、注意力・抑制力・判断力が欠如している子供が多くなっているのは、幼児期に体を動かす遊びをしていない事が要因の一つとも考えられています。</p> <p>それらを解消する取り組みが「豊岡市教育行動計画」です。これは、松本短期大学の柳沢名誉教授が考案された柳沢運動プログラムに基づいたもので、鉄棒や跳び箱、フラフープ等を用いた運動遊びを取り入れ、幼児には楽しみながら運動し落ち着く時間を設定する等の「保育スタイル」を、小学生には運動後の時間割に</p>

	<p>図形や倫理的思考力を高める教科を取り入れる「教育スタイル」をそれぞれ実践する、独自の「豊岡スタイル」として確立しました。</p> <p>効果検証については、運動が脳機能に与える影響について、光トポグラフィ装置を用い、運動後の脳活動を調査した結果、脳の集中力を司る領域が活性化し、静かな時間を設定することで更に集中課題の成績が向上するなど、楽しく体を動かす事により、動ける身体をつくりながら脳の前頭葉を活性化させ、心の成長を促していくものである事が検証されました。更に、子供たちは達成感を得、自信がつき、意欲がわき、身体を動かす事が「楽しい」「好き」につながって行く事が実証され、心と体の成長に極めて高い効果があることがわかりました。</p> <p>事業の充実期を迎えるまでの具体的流れとしては、指導者の養成、保育園・幼稚園・小学校への巡回訪問の実施、指導者への研修活動、ホームページ開設等による事業の周知活動を行い、小学校との連携強化を図る取り組みとしては、保・幼・小の教職員指導による小学1年生と5歳児の合同運動遊びを行い、さらに「豊岡市小学校体力向上委員会」を設置し、体育事業の充実を目指しながら、事業定着へと結びつけました。</p> <p>子供の教育については、子供社会の実態に立脚し、科学的な裏付けの下で現状分析と理念から目標を掲げて、進めていく事が大切です。豊岡市の実践はこの点において合理的であり、幼児期から小学生6年間にわたり一貫して行われており、市職員・保育士・教職員の連携が見られました。</p>
<p>所 感</p>	<p>本市においては、「めんごりあ」や、各保育施設でも運動遊びプログラムを一部取り入れ、行政でも「子ども子育て課」を有するなど、子どもの教育環境づくりに熱心に取り組んでいると思われま。そこに「豊岡スタイル」を導入することにより幼児期からの親子や子供同士の肌のふれあいを通じ、集団の中で人間力を育て合う環境づくりが促進できるものと考えます。大人・子供・行政それぞれの関わり方の手本として、子</p>

供の心と体を育てる「豊岡スタイル」を是非取り入れるべきと感じました。